

令和7年度

園評価

兵庫教育大学 鈴木正敏先生

R7年7月31日

●総合評価

季節の草花や木々の緑などたくさんの自然の中で視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの五感や感受性豊かな心を育む取り組みがなされていた。暑い季節の今、セミ捕りをし、動植物の観察や飼育を通して、生命の尊さや大切さを学んでいた。クラス毎に集めたセミを数えたり大きさを比べたりして数の概念や量、大きさ、種類などに興味が広がり、五感を駆使してセミの特徴分析への関心を積み重ねている。他にも網の貸し借りをしながらルールを知る、セミを捕まえる子・捕まえたセミをカゴに入れる子など役割分担をして協力をする、といったような友達とのコミュニケーションの中で協調性や社会性を育てている。また園庭に咲くオシロイバナやアサガオを使って色水を作り、新しい発見をしたり、不思議に思ったことを調べたりすることで探求する楽しさを感じられる。自然の中で自由に遊びを見つけ、思考力や想像力を養うような教育実践を期待している。

●特に評価の高い、園の良さ等

クラスの一部が取り組んだ活動を、電子黒板を使って視覚化することで、子ども全体での共有ができるとともに、気づきの共有や振り返りの機会となり活動の内容をより深められるものとなっている。また記録や写真をためておくことができ、今後の振り返りをするときにも過去のデータやイメージしたことを視覚化でき話し合いをスムーズに進められる。またわからないことを大人に聞くだけでなく検索機能をつかって自分で探し、探求心を深められ、日々の生活の中での気づきを保育者や子どもと一緒に深めていくことで継続的な遊びへと楽しんでいた。

●課題・改善が求められる点

ドキュメンテーションを保護者向けに作られているので、子どもとともに見たり読んだりできるものにすると親子の会話が豊かになる。

また、各クラスの室内遊びでは、主で進められている活動とは並行に、いつでも好きなものが自由に手にとって遊ぶことができるようになっている。活動に無理やり入れず「〇〇がしたい」という意欲的な心が、就学したときに、目的をもって学校へ行きたいという気持ちの土台作りとなる。支援に必要な園児への人的配置を課題としながら、専門性を求めて一人ひとりに寄り添う保育を期待したい。

また、

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

園内研修や自主研修のほか、外部への研修に積極的に参加し、学びの姿勢を評価していただいた。学んだ内容を園全体に周知し、同じ視点・方向性を持ちながら、保育実践に活かしたい。また、自然あふれる教育環境とともに健やかな身体作りの基盤である「体幹」をよりそく育てるため、のぼり棒・平均台・鉄棒・平均台・雲梯・吊り橋などを効果的に用いながら体の動きをスムーズにする土台形成に力を入れたい。